

ステップ・アップ

水木寛理事長のご挨拶/佐藤統括本部長のご挨拶/新任ドクターのご紹介/

新入職員のご紹介/学術講演会/接遇勉強会/行事報告/スタッフのわ

水木 寛 理事長のご挨拶

昨年9月に現職を引き継ぎ、約半年が経ちました。密度の濃い時間を過ごし、これも当法人を支えて下さっている地域の方々や関係者、役職員皆さんのおかげであると感謝しております。新年度のご挨拶ということで、この紙面を借りて、精神医療の動向を踏まえた本年度の当院の取り組み、今後の課題について述べたいと思います。

地域ニュースでご覧になった方もおられるかもしれませんが、4月某日に下関医療圏・地域医療構想調整会議に出席してきました。そこでは、下関医療圏の高度急性期・急性期機能に関する中間報告(市内4総合病院の再編)がなされましたが、同会議では本年度夏頃までに回復期・慢性期の部会を開催することも確認されました。山口県は、慢性期病床である療養病床数が全国で2位と全国平均を遙かに上回る状況であり、下関医療圏も同様に慢性期ベッドが過剰と言われる状態です。慢性期病床への風当たりはますます強くなってきており、2016年度診療報酬改定で療養病棟入院基本料の見直しが行われ、水の木会江藤病院の入院基本料は5%減算となりました。

2025年問題が目前に迫っている現在、このような流れは精神病床においても例外ではなく、対岸の火事では済まされない状況です。厚労省は2004年「入院医療中心から地域生活中心へ」の理念のもと、10年間で約7万床の精神病床を減らす目標を掲げたものの、実際は1万8千床にとどまりました。それをふまえて今年初めに新たな目標設定がなされ、その狙いは慢性期の精神病床に定められています。全国の精神科入院患者約29万人のうち64%が入院日数1年以上の長期入院患者という統計のもと、2020年度末までにその数を約3万～4万人減らすことが目標として掲げられました。また、新規患者の入院が長引かないよう、新たに入院する患者のうち、3カ月後の退院者数を69%以上、6カ月後で84%以上、1年後では90%以上とすることも示され、この目標値は早晚、診療報酬に反映される可能性があります。

そうすると、今後長期入院患者の退院促進及び入院日数の短縮化は避けられなくなると思います。現在でも1割が空床という全国の精神病床において、さらに空床率が増し、そのベッドは採算がとれず削減(不要なベッドがなくなり適正化)されるという流れは容易に想像できます。つまり、1年以上の長期入院患者(重度かつ慢性以外)が多数いる病棟は削減対象となり得ます。

このような変化の時代、病院の生き残りをかけた働きかけとして以下のことが重要になると考えています。社会の要請に応えるという当法人が地域で担ってきた役割(基本)をこれからも続けていくこと、地域特性に沿った患者さんのニーズを汲み取り・提供すること、そして職員にやり甲斐をもって働ける職場を整備することです。それらをふまえた上で、病院・外来機能の分化(特化)、他の医療機関・施設との連携、医療スタッフの確保を考えていく必要があります。

当院が謳う24時間365日対応という精神科救急の取り組みは、まさに社会のニーズであり、短期間に重点的に治療を完結させるスーパー救急病棟はこれからも重要な柱です。精神科救急の取り組みやスーパー救急病棟の運用には、患者さんを地域で支えるアウトリーチの充実が必須であり、精神症状の患者さんに特化した訪問看護ステーションの運用を準備しています。24時間対応や休日にも訪問可能な体制を整えるなどのハードルはありますが、訪問看護を独立・ステーション化することで、重症患者の重点的な訪問や、医療保険の枠組みである精神科訪問看護では認められなかった認知症患者さんへの訪問看護も可能となります。また、他病院や精神科診療所の指示で訪問ができるようになり、他の医療機関とのスムーズな連携が図れます。

そして、当院のもう一本の柱である認知症に対する取り組みとして、老年期病棟は7月1日より50床に増床し、9月1日より特定入院料を急性期治療病棟入院料から認知症治療病棟入院料に変更します。これに伴い、高齢者の精神障害全般を受けていた老年期病棟は、認知症の方だけが対象となります。精神医療における認知症治療の問題点や限界点は色々な所で指摘されていますが、この病棟では、患者さん、家族、施設そして医療機関などの多様なニーズに応えるために、受ける側と施す側双方向の治療・ケアを実践することを目指しています。そのためには複数の専門職種によるアプローチが必要であり、多職種で構成される認知症サポートチームがその役割を担います。また、入退院を老年期病棟で完結させることで転棟による患者負担を軽減し、職員配置基準の緩和により勤務負担の軽減も図ります。さらに、地域連携室を設置することで、他の医療機関・施設との連携を密に行い、患者さんとそのご家族を入院前から退院後のフォローまで一貫して行う体制を整えます。以上が本年度の当院の取り組みです。

法人の今後の課題として、精神医療の動向で触れたように、1年以上の長期入院患者が90%を超えているリハビリ病棟の運用が挙げられます。現在のリハビリ病棟は開放病棟としての機能を十分に果たしているとは言えず、比較的軽症(軽症うつ病やストレスケア)の入院ニーズへの対応も困難です。また、入院患者や施設入所者は年々高齢化しており、精神科においても身体合併症への対応は無視できません。身体科の病院では敬遠されがちな精神科対応が必要である患者さんに対して、江藤病院との連携や療養病床の活用方法を検討していく必要があります。

「変化するものだけが生き残る」と言われるように、社会、患者さんのニーズを汲み取り・提供し、その上で働きがいのある職場にできるよう、その舵取りをすることが私の使命と思っています。実現のためには現場の意見と、役職員皆さんの協力が必要です。今後ともよろしくお願いします。長文になりましたが、お読みいただきありがとうございました。

佐藤統括本部長のご挨拶



平成28年4月12日、山口銀行安岡支店の店舗から駐車場に戻る途中、故藤田暁士前事務部長にばったり出会いました。約1年ぶりくらいだったでしょうか。それから約1か月後、お亡くなりになりました。

平成28年5月31日、故水木泰前理事長とお会いし、「いつでも待っています」と優しく声をかけていただきました。それからちょうど半年後、お亡くなりになりました。

水の木会を牽引してこられたお二人とのその出会いは、偶然ではなく必然だったのかもしれない。

これまで障害者や高齢者の福祉に関わってきた私にとって、精神障害者の地域生活支援や就労支援、高齢化に伴う介護施設や介護サービス等、水の木会がここ数年多角的に展開してきた事業の充実発展に寄与することは、与えられた使命なのかもしれません。

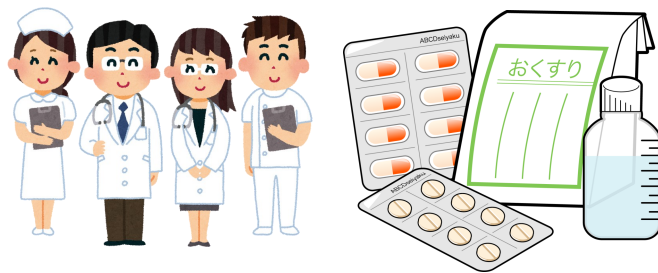
地域と水の木会、病院と介護施設や障害福祉サービス事業所を繋ぎ、萩と下関を結び、人と組織をエンパワメントできたら・・・そのような思いで、平成29年3月1日より水の木会にお世話になっております。

もとより浅学菲才ではありますが、新理事長体制の下で役割が果たせるよう努力してまいり所存でございますので、何卒お力添えをよろしくお願い申し上げます。

新任ドクターのご紹介

三苦 正恵 先生 男子回復期病棟

平成 29 年 2 月に常勤医師として勤務を開始し、精神科一般診療をしております。医学部卒業後から精神科診療をしていますが、高齢化社会に伴い認知症患者さんの数が増加することを視野に入れ、半年間放射線科で神経放射線の研修を行いました。統合失調症圏、認知症、気分障害はもちろんのこと、幅広い精神疾患に対応し、産業医としてメンタルヘルス不調者の就労支援や職場復帰支援等に携わっていることを活かした診療を提供できれば幸いです。



新入職員のご紹介

守田 裕和 地域支援部長補佐(地域支援部)

出身地:下松市 趣味・特技:アウトドア、ソフトボール
性 格:慎重 長 所:あまりくよくよ考えない
入職して取り組みたいこと:寄り添える支援ができるようにしたい



藤井 百合子 (男子リハビリ病棟/看護師)

出 身 地:北九州市
趣味・特技:お月見と散歩(これからの季節はいいですネエ)
性 格:積極的に人の輪に入って行く方ではありませんが、協調性があります。
長 所:あまり、くよくよと悩まない
入職して取り組みたいこと:日勤時、ウォーキングの時間は患者さんと歩く。

白岩 裕也 (男子リハビリ病棟/准看護師)

出 身 地:下関市
趣味・特技:マジック、ゲーム
性 格:「気をつかえる、やさしい」とか、よく言われます。
長 所:集中して取り込むことができる
入職して取り組みたいこと:患者さんの疾患などの情報をしっかりと把握し、理解して対応していきたい。

田原 卓実 (男子リハビリ病棟/准看護師)

出 身 地:下関市
趣味・特技:音楽鑑賞
性 格:人見知り
長 所:ポジティブ
入職して取り組みたいこと:誰にでも優しくて明るい看護師になりたいと思います。

金田 義則 (男子リハビリ病棟/看護補助者(学))

出 身 地:下関市
趣味・特技:楽器演奏(ギター)
性 格:何事にもコツコツと努力し、真面目に取り組もうとする
長 所:どんなことでもなにかしらの楽しみを見いだすことが出来るところ
入職して取り組みたいこと:精神疾患への理解を深め、心に寄り添う看護をしていきたい。

金子 幸子（女子リハビリ病棟/看護師）

出身地:下関市

趣味・特技:買い物

性格:心配性

長所:早寝・早起き、元気にあいさつを心掛けています。

入職して取り組みたいこと:早く仕事を覚え、患者さんが地域で生活できるように看護していきたいと思います。

山尾 祐衣（女子リハビリ病棟/看護師）

出身地:下関市

趣味・特技:寝ること

性格:心配性

長所:気配り、思いやりの心は持つように気を付けています

入職して取り組みたいこと:コミュニケーション技術を向上させて患者さんが安心できる声掛けをしていきたい。

古本 克美（老年期病棟/看護師）

出身地:下関市

趣味・特技:特になし

性格:あっさりしていると思う

長所:物事にあまりこだわらない

入職して取り組みたいこと:他のスタッフに迷惑かけない様に仕事をする。

宮本 千絵子（老年期病棟/看護補助者）

出身地:下関市

趣味・特技:マッサージに行く事

性格:明るい

長所:あまり気にしない、くよくよ悩まない

入職して取り組みたいこと:入社して1ヵ月たち職場にも少しづつなれてきたので良かったです。健康管理もしっかりとし頑張っていきます。

田村 絢菜（女子リハビリ病棟/看護師）

出身地:光市

趣味・特技:テニス、寝ること

性格:心配性

長所:働くのが好きです

入職して取り組みたいこと:色々な疾患について学んで、疾患や薬、患者さんの性格を踏まえた関わりをして関係を築きたい。

中隈 梨沙（女子リハビリ病棟/看護補助者(学)）

出身地:北九州市

趣味・特技:裁縫

性格:真面目

長所:面倒見が良い

入職して取り組みたいこと:沢山、患者さんとお話しして少しでも信頼関係を築く。

宮添 智恵子（老年期病棟/准看護師）

出身地:下関市

趣味・特技:家庭菜園

性格:明るい、まじめ

長所:丈夫で元気

入職して取り組みたいこと:身体面、精神面に気を配りながら、少しでも楽しく過ごせるように援助していきたい。

西岡 理沙子（精神保健福祉科/精神保健福祉士）

出身地:山口市

趣味・特技:旅行

性格:楽観的に考えることが多いです。

長所:集中力

入職して取り組みたいこと:患者さんやご家族の思いに寄りそった支援を行うためのスキルを身につけたいです。

萩村 憲亮（地域連携室/精神保健福祉士）

出身地:下関市

趣味・特技:魚釣り

性格:頑固一徹

長所:物事を前向きにとらえる

入職して取り組みたいこと:患者さんやご家族に寄り添い、適切な助言、福祉サービスの提供につなげていきたいと思っています。

樽見 裕也（電算室/事務）

出身地:北九州市

趣味・特技:ウインドウショッピング

性格:往生際が悪く、諦めの悪い性格

長所:粘り強い所

入職して取り組みたいこと:皆様に貢献出来る様、日々精進致しますので、何卒宜しく御願い致します。

山田 一雄（重度認知症ケアぬくもり/作業療法士）

出身地:下関市

趣味・特技:旅行

性格:おおらか、明るい

長所:真面目で何事にも一生懸命取り組む所

入職して取り組みたいこと:認知症のある方でも地域で安心した生活を送る為のサポートがしたいです。

石井 春菜（富任荘/介護福祉士）

出身地:下関市

趣味・特技:読書、動物・大正琴

性格:明るい

長所:負けず嫌い

入職して取り組みたいこと:関る人々の笑顔に寄り添いたいです。

増田 有亮（心理科/心理士）

出身地:熊本県熊本市

趣味・特技:ドライブ、おいしいものを食べる事

性格:受動的、内向的、腰が重く慎重

長所:話を聴くのが得意、ガマン強い

入職して取り組みたいこと:まずは病院や地域のことを知り、慣れることから始めたいと思います。

山内 瞳（福祉サービスかじくり/社会福祉士）

出身地:愛媛県松山市

趣味・特技:音楽・DVD鑑賞

性格:大雑把

長所:ストレスを溜め込まない所

入職して取り組みたいこと:利用者さんの良い所や得意とする所を伸ばしていけるような支援をしていきたいです。

中野 千春（山茶花/介護福祉士）

出身地:下関市

趣味・特技:読書

性格:人見知りで心配性

長所:意志が強い

入職して取り組みたいこと:色々な利用者の対応の仕方を身につけていきたい。



学術講演会



平成 29 年 3 月 3 日

岡山県精神科医療センターにおけるクロザピン治療の実際

岡山県精神科医療センター **矢田 勇慈** 先生

統合失調症には抗精神病薬を十分量、十分期間投与しても反応性に乏しい、治療抵抗性統合失調症が、この疾患全体の30%を占めるといわれています。今回の講演では、その治療のための唯一



の薬剤であるクロザピンについて、岡山県精神科医療センターの矢田勇慈先生が、使用に関して注意するポイントを実際の経験も交えて詳しく説明くださいました。クロザピンは副作用の面で非常に扱いにくい薬剤ですが、その治療効果については他剤を凌駕する成績であり、リスク管理を徹底すれば多くの患者さんの社会復帰に貢献できる薬剤だと思います。当院に

においてもこの薬剤の使用を控えており、今回学んだことを生かし安全かつ適正に患者さんのサポートができるよう努めていきたいと思っています。

薬剤部 **清家 浩二**

接遇勉強会



平成 29 年 4 月 5 日

ティーエスアルフレッサ CS推進部 **平儀野 真紀** 先生

接遇については、毎年新人も含めた全体研修として行っていますが、何故医療現場で「接遇」を細かく言われるのでしょうか。

接遇の「遇」という字は“遇す(もてなす)”と読みます。遇すとは思いやりの心をもってお世話をすること。つまり接遇とは、思いやりの心を込めて相手に接することです。「相手を思いやる」とは相手の立場に立って、相手の考えや気持ちに思いを寄せること、相手に興味をもち、関心を寄せることです。患者さんの身になって考える「心のケア」、患者さんと同じ目線に立って考える行動の可視化(身だしなみ・言葉使い等)。患者さんが再訪したくなる病院となるために、この2つは非常に大切な医療接遇だと考えます。

患者さんへの感謝に気持ちを忘れず接していくことが、何より大切です。

看護部 **道下 由利子**

行事報告



長府歴史博物館 男子リハビリ病棟

平成 29 年 2 月 9 日



2月9日に下関市に新しく出来た下関市立歴史博物館に行かせていただきました。新しい公共施設に皆さん興味を持っており、普段院外に出ない患者さんも意欲的に参加されていました。博物館では案内人の方の説明に熱心に耳を傾けていました。これからも院外活動を通して、地域への興味の拡大と社会性の向上を図っていかれたらと考えています。

作業療法科 田原 曉仁

イチゴ狩り 女子回復期病棟

平成 29 年 2 月 16 日



2月16日に小野田市へ患者さんと苺狩りに出かけました。苺はいくつか種類があり、食べ比べをして自分の好みの味を探すなど、楽しみながら春の味覚を感じている様子でした。敷地内にはヤギやウサギが飼育されており、地域の子どもと一緒にエサやりを体験することができました。入院生活の長い患者さんも多く、公共施設の利用



機会の少ない方にとっては公共施設の利用方法や地域との関わりについて学ぶ機会となりました。

作業療法士 土谷 亜維

つなげよう！ スタッフの わ

連載23回 スタッフでつなげる、趣味のはなし。



最近自分が新しく始めたことは、ペットでげっ歯類のデグーを飼い出したことです。デグー自体はあまりメジャーではなく、知らない方も多いと思いますが、とても人懐っこく、自分から手の上やポケットの中に入ってきたりします。今ではデグーと一緒に遊ぶことが癒しの一つになっています(笑)

今では猫カフェや犬カフェなど身近に動物と触れ合うことが出来るので、皆さんもぜひ動物と触れ合って癒されてみて下さい！

作業療法科 田原 曉仁

今回は男子回復病棟の 末永 祐樹 さんです。お楽しみに！

編集後記



新年度が始まり、新入職された方も徐々に仕事に慣れてくる頃だと思います。一つ一つにメモを取っている姿を見ていると懐かしくもあり、自分を振り返ったりしています。

それに先日、以前の同僚と久々に会う事が出来ました。その人も場所は変わっても「研鑽」は大事だと盛り上がりました。やはり自己研鑽や初心に還るのは大事なのだなと改めて感じた出来事でした。 広報委員 小川 高宏

下関病院 広報委員会

〒 759 - 6613

山口県下関市富任町 6 丁目 1 8 番 1 8 号

☎ 083-258-0338 FAX 083-259-8876

<http://www.mizunoki.jp>shimobyout@mizunoki.jp

水の木会

検索

